

溝小だより

<https://mizonobe-kahoku.edumap.jp/>

河北町立溝延小学校

学校通信 No.354

2023.2.28

学校教育目標：ふるさとだいすき かしくく つよく やさしく

あいさつが響くふるさとで育つ

「朝ゴミ出しに行くど、『おはようございます』って元気にあいさつしてくれるの。かわいくてね。」

「学校帰りの子どもたちが『こんにちは』ってあいさつしてけんのよう。それが元気の源ですね。」

「知らない子も『こんにちは』って言うってくれるんだ。たいしたもんだね。」

これらは、小正月行事でお会いした老人クラブの方々からと民生委員・児童委員と語る会でのうれしい声です。子どもたちはこんな風にして地域の方々となつたり、育っているんだと、改めてうれしく、ありがたく感じています。

よく「当たり前のことを当たり前にするように」という言葉を耳にしますが、「当たり前」には2つの意味があるようです。(広辞苑より抜粋)

- ① そうあるべきこと。当然。
- ② ごく普通であること。なみ。

では、**当たり前にあいさつができる**とはどういうことなのか改めて考えてみたいと思います。

①に当てはめてみれば、「あいさつをするのは、当然である。」ということになるでしょう。あいさつはできて当然であり、できるかできないかが重要だと捉えることができます。

一方、②に当てはめてみると、「あいさつをするのは、ごく普通のことである。」ということになるでしょう。つまり、朝、顔を洗ったり、食べた後に歯をみがいたりする行為と同じで、「なにも特別なことではありません。普通のことですよ。」という解釈になります。

①もまさしく当然の理論だと思いますが、子どものこれからを考えれば、私はどうも②の方が大事なのではないかと思います。

出会った人に 普通に あいさつができる
出会った人と 普通に あいさつが交わせる

言い換えれば 習慣になる 身につく いつものこと 等になるでしょう。

一度当たり前になった(普通・習慣・身についた・いつもの)行為は、そうしないとどこか気持ちが悪いものです。「すれ違った人とあいさつを交わさないと、どうも気持ちが悪いなあ。」という人は あいさつは普通のことになっている証拠だと思います。小さいとき「ごちそうさま」を言うのが当たり前だった人は、食堂等でも黙ってお勘定するのが気持ち悪くて、何歳になっても「ごちそうさま。」「おいしかったです。」と言わずにはいられないそうです。すると、「ありがとさまね。」等と返事が返ってきて、いっそう温かい気持ちで店を出ることが多いと聞いたことがあります。

人は人とつながりながら様々なことを乗り越えて生きてきましたし、コロナ禍の3年間で私たちは一層その大切さを痛感しました。



子どもは未来からの預かりもの やがて大人の手を離れ 社会を創る担い手

あいさつは、人が人として生きていく上で、人とつながる第一歩ですから、これからも地域・家庭・学校みんなで大切にしていきたいと考えています。

本校ホームページへ
こちらからどうぞ



(校長 小林 聡)